

緑の庭を振り返って

江花 珠代 福島県河沼郡 六十七歳

「みどりの文」募集の最初のころ、正直、参加賞目当てで応募していました。中でも、タラヨウが描かれた一筆箋がお気に入りでした。内容が少し変わってからも応募を続けていましたが、募集期間が長いので、もう少しあとでと思っていたうちに逃してしまうこともありました。今年こそはと思っていたが、最終回とは残念です。

振り返れば、緑に囲まれて過ごして来たな、つくづくいい環境の中で生活できているなと思います。

まず、嫁ぐまでくらしした実家の庭。夏になると、ケヤキやソメイヨシノ・プラタナスの幹から聞こえる蝉時雨をBGMに昼寝していたっけ。それらの葉と葉の間から差し込む光がキラキラし、風がそよぐと枝や葉がゆらゆら揺れ、飽きずに見上げていたものです。

今、住んでいる家の庭には、舅と姑の結婚記念に植えたソメイヨシノの枝がアーチとなってお客様をお迎えし、満開のころには、道行く人も足を止めてお花見です。夫や私の退職記念には、それぞれハナミズキとピエール・ド・ロンサルを植えました。娘の結婚記念に植えたのは、南殿桜です。

思えば、私の入学や卒業・就職と、折に触れさまざまな木を植えてくれた父。花がら摘みに励んでいた母。私の息子の小学校入学祝いにノウゼンカズラを植えてくれた姑。

「みどりの文」最終回に当たって、緑の庭に思いを馳せる機会をいただきました。さて、草むしりと水やりを始めますか。